

ゴール15 「陸の豊かさも守ろう」

SDGsゴール15は「陸の豊かさも守ろう」を目標としています。

世界の森林面積は約40億ヘクタールで、全陸地面積の約30%を占めています。しかし、世界の森林は減少を続けており、毎年約300万ヘクタールが減少しています。特に、南アメリカ、アフリカなどの熱帯の森林を中心に消失しています。

また、異常気象や開発行為により森林が失われたり、化学物質による汚染などで、土壌が劣化し、生態系を保てなくなっている土地は、地球の陸地面積の5分の1におよびます。

陸上生態系の保護、回復及び持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止及び逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図ることが求められています。

日本でも、手入れの行き届かない森林や農地の増加などにより生

態系への影響や自然災害の発生など課題が多くあります。

○行政の役割としては

自然生態系の保護と土地利用計画は密接な関係があり、自治体は大きな役割を有しています。また、自然資産を広域に保護するためには、自治体単独ではなく、周辺の自治体や国、その他の関係者と連携し対策を講じることが不可欠です。

○私たちができること(例)

- ・ 植林活動や森づくりに参加してみる。
- ・ レッドリスト(絶滅のおそれのある野生生物のリスト)について調べてみる。

2030年までの国際的な目標の実現に向け、ターゲットを意識して実践しましょう。



私たちができること(例)



環境省のホームページでレッドリストについて調べることができます。



インターネットなどで調べてみる。



植林活動や森づくりに参加してみる。

目標達成のためのターゲット

- 2030年までに、持続可能な開発のために欠かせない山地の生態系の能力を強めるため、多様な生物が生きられる産地の生態系を確実に守る。
- 保護しなければならない動植物の密猟や、法律に反した取り引きをなくすために、緊急の対策をとる。法律に反する野生生物の製品が求められたり、売られたりすることがないようにする。

SDGs 15 「陸の豊かさも守ろう」では、上の2つのターゲットを含む、全12のターゲットを掲げ、目標達成に向けて取り組みを進めていきます。

※公益財団法人 日本ユニセフ協会HP引用